

### 3. 医局一年の歩み

医局長 津田 有輝



2018年5月に荒木優先生から医局長を引き継ぎ、短いような長いような11ヶ月でした。私自身「ひとはみんなのために、みんなはひとりのために」をモットーに、医局員や同門の皆様のため尽力したいと頑張ってきたつもりですが、医局員や同門の皆様には医局運営に多大なるご協力を賜り本当にありがとうございました。また医師派遣などにつきましてご迷惑をお掛けしましたことをこの場を

借りてお詫び申し上げます。

2018年度第2内科学の出来事ですが、尾辻豊教授が産業医科大学病院長と第2内科学教授兼任の2年目となりました。尾辻教授以下医局員一同、第2内科のためだけでなく産業医科大学全体のために頑張っておいております。6月には10年以上にわたり産業医大心臓外科を支えてこられた西村陽介先生が心臓血管外科学初代教授に就任されました。今後さらに急性大動脈解離をはじめとする緊急症例に対しても、心臓血管外科と第2内科で共に患者様のため協力、切磋琢磨できればと思います。6月1日長谷川恵美先生が大学から産業医大若松病院助教へ出向となりました（10月より若松病院診療科長を担当）。6月からエコーグループ永田泰史先生がボストン・マサチューセッツ総合病院に留学されました。7月1日清水昭良先生が社会人大学院生兼助教として産業医大若松病院へ出向となりました。7月から心カテグループの榎山国宣先生がカリフォルニア・スタンフォード大学に留学されました。7月14日平成最後となりました第30回同門会総会・懇親会がクラウンパレス北九州で開催され、熊本大学大学院生命科学部腎臓内科学教授向山政志先生に「CKDとAKIの新展開～心腎連関におけるバイオマーカーの意義～」のタイトルで特別講演を賜りました。今ではすっかり心不全の診断・治療に欠かせないBNP発見の経緯等についてユーモア溢れる、そして今まさに研究テーマと戦っている大学院生にとっては勇気づけられるお話を聞かせて頂きました。黒岩賞は佐貫仁宣先生で、受賞論文（第2世代薬剤溶出性ステント植え込み後のステント内新規動脈硬化病変を光干渉断層法（OCT）にて観察）について講演頂きました。9月30日曾我三佳子先生が退局されました。10月1日中俣潤一先生が産業医大若松病院助教から芦屋中央病院、早川裕紀先生が大学から産業医大若松病院、山岸靖宜先生が芦屋中央病院から九州労災病院へ出向、渡邊泰生先生が北九州総合病院から、岡部宏樹先生が産業医大若松病院から帰任されました。11月1日村岡秀崇先生が大学から産業医大若松病院講師へ出向となり、同日より尾上武志先生が第2内科学社会人大学院生兼助教に昇任されました。12月15日腎センター部長兼診療教授、第2内科副診療科長で長年腎グループを牽引してこられた田村雅仁先生が退職されました。12月21日「割烹旅館かねやす」にて第2内科および心臓血管外科学合同での初めての忘年会および田村雅仁先生の送別会が行われました。幹事も合同で第2内科から石井、角森、中村（圭）、永井先生、心臓外科から瀧川友哉先生に頑張ってもらい、新人看護師さんとかくし芸も大いに盛り上がり会場を沸かせました。2019年1月1日八尋和恵先生、佐藤憲仁先生が入局されました。2月1日宮本哲先生が腎センター部長兼診療准教授、第2内科副診療科長に昇任されました。新生腎グループをさらに高めてくれる逸材だと思いますので、皆様どうか応援をよろしく申し上げます。また2月には林篤志先生がカリフォルニア・シーダーズサイナイ・メディカルセンターより2年間の留学を終え帰任されました。

---

3月31日鄒月玲先生が退局されました。今年度の産業医科大学の医師国家試験合格率は88.4%と全国平均89.0%をわずかに下回る残念な結果でしたが、第2内科入局の石川和暉、田島慶一、倉恒克典先生の3名は見事全員合格でした。田島先生は産業医科大学病院、倉恒先生は北九州市内の新小文字病院、石川先生は神奈川県相模原病院で初期研修を行うこととなっています。2年後に大きく成長して産業医大に戻ってきてくれることを期待しております。

病棟医長は穴井玲央先生に頑張って頂きました。8A病棟は40床ですが、それ以外に常時10床近く他病棟に依存している状況となっており、穴井先生は関係部署との交渉が大変だったことと思います。外来医長は村岡秀崇先生に活躍頂きました（11月より津田が担当しました）。

2019年度の新医局長は萩ノ沢泰司先生、新病棟医長は林篤志先生、新外来医長は岩瀧麻衣先生となります。私は副医局長として新三役を支えて参りたいと思いますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。また同門の皆様にはどこかで一緒に働いた（ている）、またはこれから一緒に働くかもしれない第2内科若手医局員のために、今後も益々お力添え頂きますようお願い申し上げます。



令和元年 5 月 20 日 撮影

## 院内カンファの様子



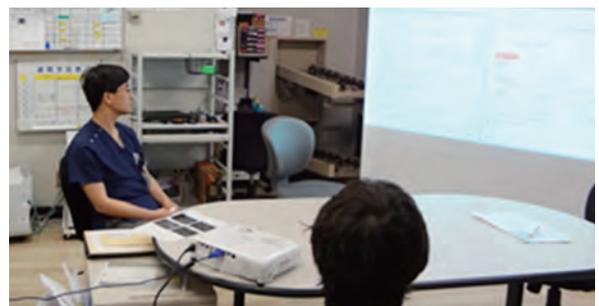
循環器内科・腎臓内科カンファ（月曜日 病院 3F カンファレンス室）



医局会（月曜日 18:00～ カンファレンスルーム）



心カテカンファ（木曜日 医局カンファレンスルーム）



腎カンファ（金曜日 腎センター）

## 新任・昇任スタッフの自己紹介



第2内科学  
助教 尾上 武志

同門の先生方には平素よりご高配を賜り厚く御礼申し上げます。2018年11月より産業医科大学第2内科学助教を拝命いたしました尾上武志と申します。現在は心エコーグループの大学院生として尾辻教授の元で日々の診療および心エコー図検査に関する研究に携わっています。この分野は多くのエビデンスが蓄積され日本・海外でも弁膜症ガイドラインが公表されていますが、新しいデバイスやまだ解明されていない病態に対する適応が日々変化しているのが現状です。例えば大動脈弁狭窄症に関してだけでも、『外科手術が低リスク例であっても経カテーテル的大動脈弁置換術を行ってもよいのかどうか』といった問題点や『弁口面積が小さくても心拍出量が少ないために圧較差が大きくなる重重大動脈弁狭窄症の症例が全体の10～30%程度を占めますが、それに対してどのようにアプローチするべきなのか』といった問題点などがあり、今後の診療が大きく変わってくる事が予想されます。そんな中で、一人ひとりの患者さんにとってどう対応していく事が最も幸せになれるのか、チーム全員で考えながら診療にあたりたいと考えております。微力ながらお役に立てますよう精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



腎センター  
部長・准教授 宮本 哲

2018年2月付で腎センター部長、准教授を拝命致しました宮本哲と申します。私のような若輩者がこのような大役を仰せつかりまして身の引き締まる思いです。私は2001年に産業医大を卒業して第2内科に入局後、大学で研修を行いました。病棟医長の高水間亮二先生を始め、各科の先生方に厳しくも温かい指導を受けることができました。社会保険筑豊病院では廣重欣也先生に薫陶を受け、アクセス手術を含め腎疾患診療の基本を学びました。市立八幡病院では循環器医として働く貴重な機会を頂きました。浜松労災病院では楽しく有意義な時を過ごしました。浜松は腎臓栄養のメッカであり、蓄尿データをもとに管理栄養士と共に腎疾患の外来管理を行うという当時では新鮮な経験をさせて頂きました。6年目で大学院生として大学に戻ってからは、腹膜透析液の生体適合性に関する基礎研究に従事させて頂きました。第2解剖学では故・土井良秋先生を始め諸先生方に、動物実験の方法から組織の観察まで御指導頂き大変お世話になりました。尾辻豊教授のお許しを得て2009年よりカロリンスカ研究所腎臓内科（Peter Stenvinkel教授）の臨床研究部門に留学させて頂き、腎不全における低栄養に関する研究を行いました。研究を通して腎疾患における栄養管理の重要性を改めて実感すると同時に、コホート研究の面白さや疫学アプローチの限界を学ぶこと

---

ができました。2011年に帰国後は2内科に戻して頂き外来医長や病棟医長を経験させて頂きました。現在は腎センターで活気溢れる若手医師、スタッフとともに腎疾患、透析患者の診療にあたっています。昨年からは病院のNSTにも関わらせて頂き、腎疾患以外の患者さんの栄養管理も勉強中です。長年に渡り御指導賜りました田村雅仁先生を始め、腎内を発展させてこられました諸先輩方にこの場を借りて深く御礼申し上げます。また、腎臓グループを常に温かく見守って頂いている尾辻豊教授を始め、循環器内科の先生方に深謝申し上げます。

産業医大病院の腎臓内科は腎炎・ネフローゼから急性・慢性腎不全、透析患者の合併症やアクセストラブル、アフェレーシスまで幅広く診療を行っています。患者背景も様々で画一的な加療方針では太刀打ちできない症例も多いです。皆で加療方針を議論し、患者にとってベストの選択を導き出せるようなグループを目指しています。その過程で各々がリサーチクエスションを持ち、研究に取り組んで新たなエビデンスを発信できるようになりたいと思っています。同門の先生方には今後とも御指導御鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。